

2023 11/14

No.2198

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



中国の旧正月「春節」に向け祝賀ムードを盛り上げる「春節燈花」の点灯式が1日、横浜中華街（横浜市中区）で行われた。点灯は来年2月までの予定。



contents

視点点描	
大震災100年に思う	3
講演録	
韓日新時代に向けて真の歴史和解 ～百済武寧王の生涯から 駐横浜大韓民国総領事 金 玉彩	4
特集	
ジャニーズ事務所 ビッグモーター 「同族経営」の病 ガバナンス欠如	8
経済双眼鏡	
またも取り沙汰される「日本病」 中国が発信、経済停滞の危機感共有か	12
風人来人	
「沈黙」という罪	13
かながわTODAY	
10月の主な経済ニュース	14

事務局だより

◇2023年11月の講演会
11月29日（水）午後1時半～3時
メルヴェーユ（県民共済プラザビル）
講師：社会保険労務士
市島 徹 氏

◇2023年12月定例講演会
＝シンポジウム・交流会
12月15日（金）午前11時～午後1時30分
崎陽軒本店（横浜駅東口）
講師：
共同通信社
政治部長 杉田 雄心 氏
経済部長 春木 和弘 氏
外信部長 淵野 新一 氏
神奈川新聞論説主幹
鈴木 達也 氏

◇2024年1月の講演会
1月17日（水）午後2時半～4時
神奈川新聞社12階大会議室（横浜市中区）
講師：女流落語家
蝶花楼 桃花 氏
※時間が変更になりました。

【お知らせ】神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



大震災100年に思う

東京や横浜を中心に10万5千人
余りが犠牲になった関東大震災か
ら100年が過ぎた。

発生日である9月1日を中心に
追悼行事や講演、展示などが各地
で次々と企画された。そうした動
きをメディアがこぞって取り上げ
たことで、「震災100年」の節
目を認識した人も少なくないだろ
う。しかし、その「熱気」は過去

のものとなりつつある。

災害や大きな事件・事故などの
節目に報道が過熱気味となり、そ
の体験者や遺族らへの取材が集中
することは珍しくない。「記念日
報道」や「アニバーサリー・ジャー
ナリズム」などとして批判を浴び
ることもある。

災害の関係で言えば、阪神大震
災が起きた1月17日や東日本大震

災の3月11日にそれは繰り返され
てきた。なお復興の途上にある東
北の沿岸部では近年、3月に入る
と多くなる被災地報道が与える心
理的な負担が指摘されている。

地震の発生時刻に合わせ、3月
11日午後2時46分に黙とうの合図
として鳴らされるサイレンも、見
直しが求められている。つらい記
憶を呼び起こす場合があるため
で、配慮が必要になっている。

「教訓を語り継ぐ」「あの日を忘
れない」。過去の災害を振り返
るメディアの常とう句だが、「思
い出したくない」という被災者が
いることも決して忘れてはならな
い。その思いに心を寄せつつ、そ
れでも伝え続ける役割をいかに果
たしていくかが問われている。私
たちが考え続けなければならな
いのは、「何を」だけでなく、「いつ」
「どう」報じるか、だ。

100年を過ぎた関東大震災は

もはや歴史の領域だ。体験者の言
葉を直接聞く機会は、ほとんどな
い。押し寄せる津波から逃れた経
験を本紙も含む報道各社に語って
くれた112歳の女性は今秋、鬼
籍に入った。主体的に学ぼうとし
なければ、神奈川の全域が被災し
た震災の事実を知る機会はほとん
どない。

一方で、関東大震災に関する公
的な記録や体験記、写真、絵画、
石碑などは数多く残っている。震
災の実態解明を重ねてきた研究者
は「まだ分析できていない資料が
たくさんある」という。

こうした現実を見つめ、被災地
のいわば中心に存在し続ける新聞
社として、継承の一翼を担ってい
くほかない。その役割はむしろ、
熱気が冷めた今、そしてこれから
の方が大切になる。

(神奈川新聞社報道部長・

渡辺 渉)